研 究 会・シンポジウム報告

2019 年 7 月 23 日（火）　定例研究会報告

テーマ：　Rebalancing to Asia: Views from Europe

報告者：　Angels Pelegrin Sole 氏（University of Barcelona）

Lluc López i Vidal 氏（Universitat Oberta de Catalunya）

討論者：　大橋英夫所員（本学経済学部教授）

稲田十一所員（本学経済学部教授）

時　間：　16 時～18 時

場　所：　専修大学生田キャンパス 9 号館 95G 教室

参加者数：15 名

報告内容概略：

米国トランプ政権の誕生、Brexit、EU 内部でのポピュリズムの台頭等が象徴するように、国際関係の不確実性が増す一方である。本研究会では、経済的な重要度を高めてきた東アジアと EU の国際関係にフォーカスして、政治学、経済学の視点からリベラリズムにもとづく国際秩序の存続可能性を討議した。

Lluc López i Vidal 氏は米国から中国へのパワーシフトを軸に、安全保障の観点からリベラルな国際秩序と非リベラルな国際秩序（修正主義）の対抗関係がもたらすインパクトについて、EU と日本のそれぞれの視座にたって分析した。

Angels Pelegrin Sole 氏は日本・中国・ＥＵ・米国の間の貿易・投資関係の動向を指標化して考察を加えた。米中貿易摩擦が深化するなかで、日本・中国の貿易・投資関係が重要度を維持しており、同時に EU と中国、EU と日本の相互依存関係も緊密化する傾向が現れている反面、米国のプレゼンスが相対的に低下しつつある点を指摘した。

討議では来年度の米国大統領選挙の結果がもたらすシナリオ、EU の対外政策決定と中国政策、TPP11 と EU のリベラル第三極形成の可能性などをテーマに盛んな質疑応答が行われた。

記：専修大学経済学部・狐崎知己